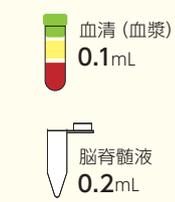


## 犬ジステンパーウイルス (CDV)

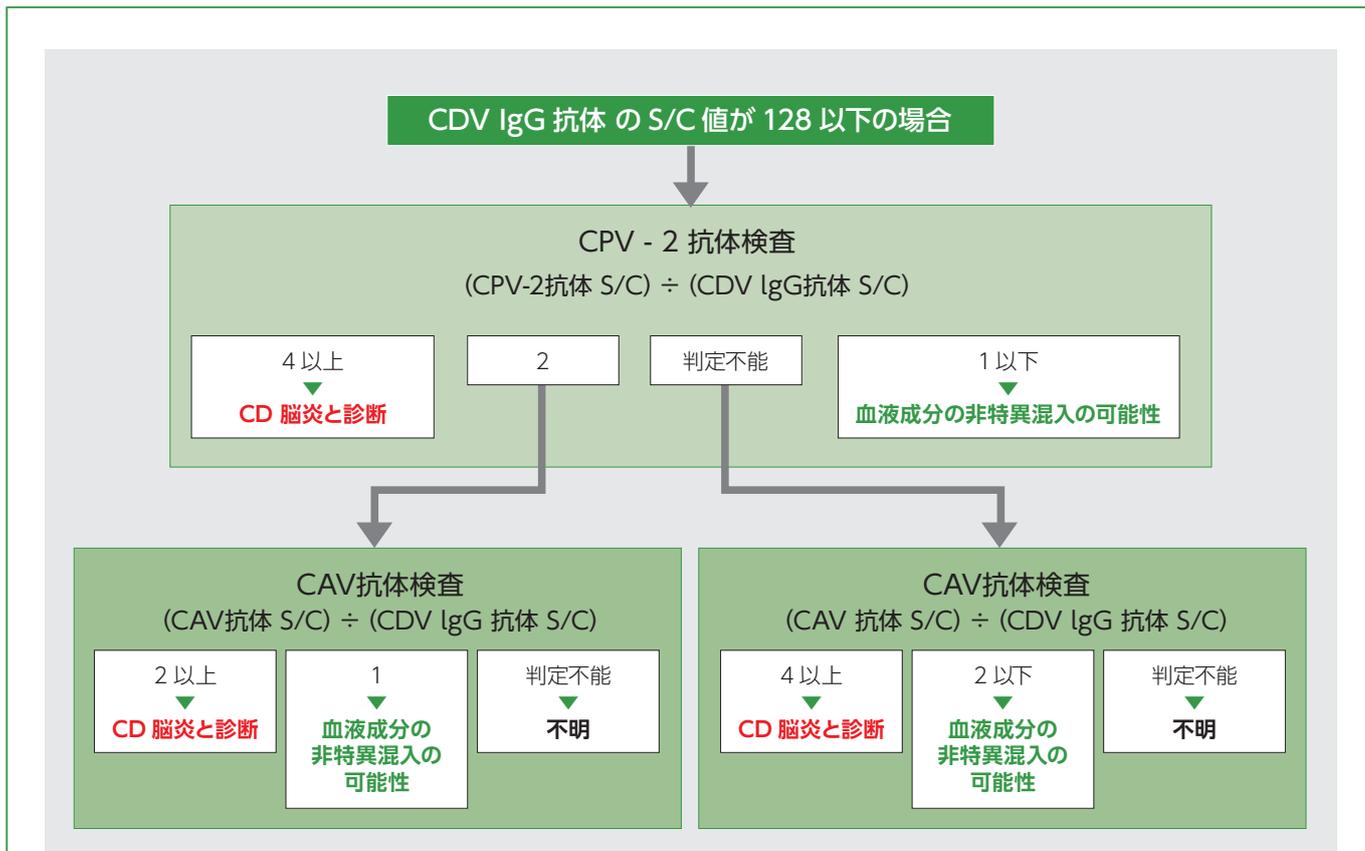
- CDV のすべての検査はフェレットでも適応可能です。
- ワクチン効果、防御能の判定には犬ワクチンセット (18ページ参照) をご利用ください。
- ★検査材料は遺伝子専用としてお送りください。遺伝子以外の項目と重複している場合は必ず遺伝子用に材料を分けてください。

項目名	検査材料 必要量	送付 方法	所要 日数	検査 方法	検査項目の説明、注意事項
CDV 共通遺伝子★	 鼻汁 糞便 結膜スワブ  適量	冷蔵	5日 以内	RT-PCR	1. 特に犬ジステンパー (CD) の呼吸器や消化器症状など CD の初期症状を呈している例 (幼齢犬に多い) の診断に効果的です。 2. 鼻汁、涙液、糞便は滅菌綿スワブで採材してください。 3. <b>脳脊髄液からの本遺伝子の検出は特に急性脳炎 (幼齢犬に多い) で有効です。</b> 成犬でよく観察される慢性脳炎や遅発性脳炎 (CD の初期症状を伴わない) の場合は急性期に比べるとやや検出率が低下します。 <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>ワクチンの影響</b>                          一般的に CDV 生ワクチン接種 1 ヶ月ほどワクチン株が血液、分泌物、排泄物から検出されることがあります。このような症例で陽性の場合には野外株遺伝子検査の追加をお勧めします。                     </div>
	 全血 (EDTA 処理) 0.5mL	冷蔵 禁冷凍			
	 脳脊髄液 0.3mL	冷蔵			
CDV 野外株遺伝子	共通遺伝子検査で増幅された PCR 産物を使用します	FAX	4日 以内	PCR-RFLP	1. <b>CDV 共通遺伝子で検出された遺伝子が野外株かワクチン株かを多型分析検査にて識別します</b> (共通遺伝子陽性の場合のみ検査をお受けします)。 2. ご依頼の際は FAX またはお電話にてご依頼ください。(追加検査のご依頼は結果報告書到着から7日以内まで可能です。) 依頼書にて共通と野外株遺伝子両方ご依頼の際は共通遺伝子が陽性になった場合野外株遺伝子の検査を追加いたします。
CDV IgM 抗体	 血清 (血漿) 0.05mL	常温 冷蔵 △	3日 以内	ELISA	1. <b>犬ジステンパー (CD) の呼吸器や消化器症状など初期症状を呈している例 (幼齢犬に多い) の診断にご利用ください。</b> 2. IgM は IgG に比べてやや不安定です。夏季は普通郵便以外 (速達や宅配便) での送付をお勧めします。 <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>ワクチンの影響</b>                          一般的に CDV 生ワクチン接種 4 週間以内の場合はワクチンによる IgM が検出されることがあります。ただし 400 倍以上の抗体価の場合は CDV 野外感染が強く疑えます (ワクチンで産生される IgM は弊社の検査系で 200 倍以下)。                     </div>
CDV 中和抗体	 血清 (血漿) 0.2mL	常温 冷蔵	7日 以内	NT	
CDV IgG 抗体	 血清 (血漿) 0.05mL	常温 冷蔵	3日 以内	IP	1. <b>CD の慢性または遅発性脳炎の診断のために血清と脳脊髄液 (CSF) の同時検査が効果的です。</b> 2. 血清抗体価 /CSF 中抗体価の値 (S/C 値) が <b>128 以下の場合 CD 脳炎の診断基準となります。</b> なお CDV 以外に起因し、S/C 値が 128 以下になる場合があります。このため引き続きリファレンス抗体検査やアルブミン定量をお勧めします。 3. リファレンス抗体追加の場合、本検査分を含め、血清 (血漿) 0.15mL、CSF 0.3mL が必要になります。 4. <b>ワクチン未接種の幼齢犬を除き、血清中 IgG 抗体の単独検査は診断に結びつきません。</b> ワクチン未接種では以下の場合に感染が強く疑えます。 1 ヶ月齢 ▶ 5,120 以上    2 ヶ月齢 ▶ 640 以上 3 ヶ月齢 ▶ 40 以上      4 ヶ月齢 ▶ 10 以上
	 脳脊髄液 0.1mL				

検査ご利用に  
 病理検査  
 犬ワクチンセット  
 犬感染症検査  
 猫感染症健康セット・  
 猫ワクチンセット  
 猫感染症検査  
 薬物検査  
 生化学・  
 内分泌セット検査  
 生化学検査  
 内分泌検査  
 その他の検査

項目名	検査材料 必要量	送付 方法	所要 日数	検査 方法	検査項目の説明、注意事項
血清抗体価 / CSF 中抗体価の値 (S/C 値) が 128 以下の場合の確認試験					
リファレンス抗体	上記 IgG 抗体検査の残量を使用 		10日以内	CPV-2 : HI CAV : NT	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. IgG 抗体の S/C 値が診断基準 (128 以下) になった場合、それが CD 脳炎によるものか CDV 以外に起因するもの (血液脳関門の非特異的破綻や CSF 採材時における血液の非特異混入) かの鑑別のための検査です。</li> <li>2. 依頼書にて CDV IgG 抗体とリファレンス抗体を同時依頼された場合は、CDV IgG 抗体検査の結果が S/C 値 128 以下だった場合にリファレンス抗体検査を追加させていただきます。</li> <li>3. サンプルは CDV IgG 抗体検査の残りを使用します。新たに採材したサンプルでは検査できません。</li> <li>4. リファレンス抗体追加のご依頼は CDV IgG 抗体検査の結果報告書到着後 7 日以内に FAX またはお電話でご依頼ください。</li> <li>5. 判定基準は下記の表を参照してください。</li> </ol> <p><b>ワクチンの影響</b> ワクチン接種後 1 ヶ月以内および CPV、CAV 感染が疑われる症例での適応は好ましくありません。</p>

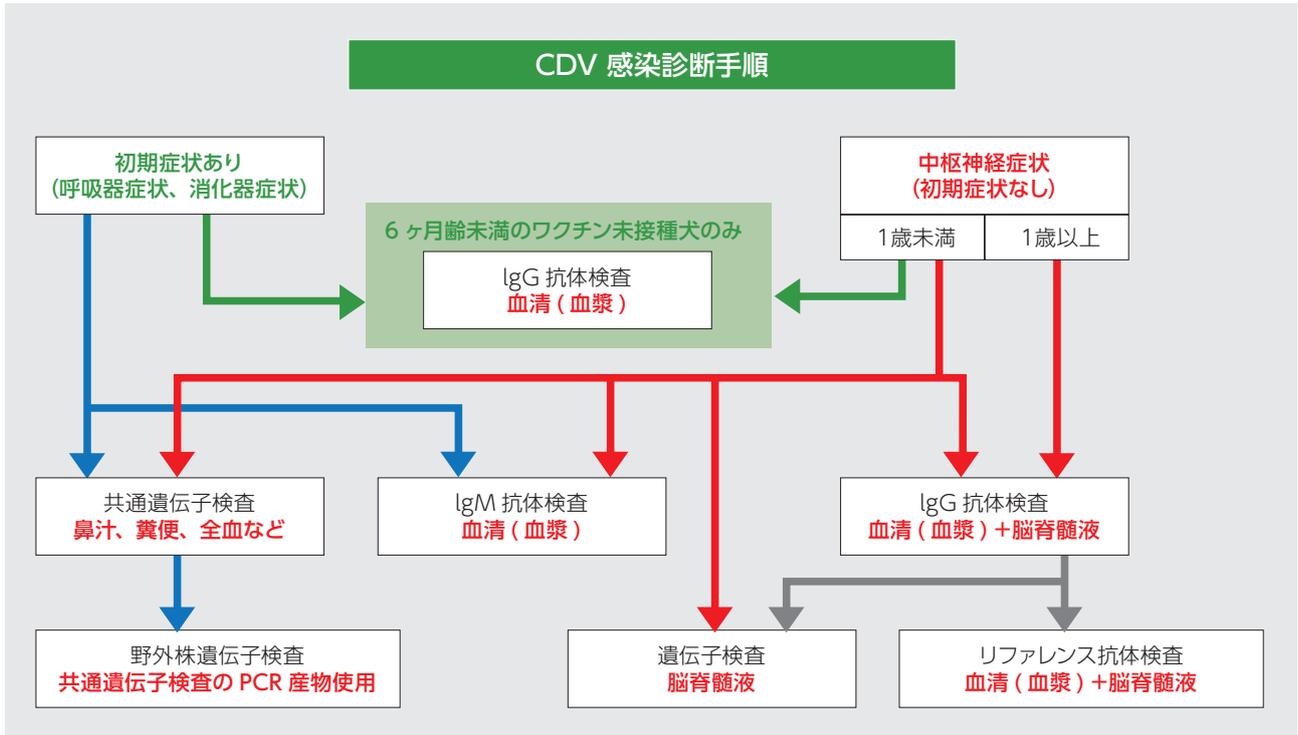
【リファレンス抗体判定基準】



- 指標とする CPV-2 と CAV の抗体は犬の血液中に必ず存在するものではありません。このため血清中のリファレンス抗体価が一定量以上 (確実に判定できるレベルは 320 以上) でなければ判定不能となる場合があります。
- 本検査はまず CPV-2 抗体検査を実施し、判定に値しない成績の場合、引き続き CAV 抗体検査を実施します。
- サンプル量が少なく検査が継続できない場合や CPV-2、CAV とともに判定不能の場合であっても料金が発生いたします。
- CPV-2 抗体検査で判定できた場合は CAV 抗体検査は実施いたしません。

## 【CDV 感染診断手順】

下記の診断手順はあくまで一般的なものです。特に中枢神経症状については先進国において成犬での急性症例が少ないことを基準にしたものです。例外があることをご配慮ください。



## 【CDV 感染後の遺伝子、抗体および白血球数の推移】

この模式図は一般的なもので、必ずしもすべての症例にあてはまるとは限りません。特に死の転帰をとるような重篤な例では遺伝子の検出期間の延長や抗体上昇の遅延が起きることが多くみられます。

